



「つきへん」と「にくづき」は、どちらがうの

● 「にくづき」は「つき」ではなかった

服・朋・朧などの左の「月」の部分は、「つきへん」です。腕・胸・腸などの「月」の部分は「にくづき」です。「にくづき」は、「肉」を漢字の部首として使う場合の形で、もともとは、「つきへん」とは少しちがう形をしていました。

● 「にくづき」を「つきへん」と同じ形にかえた

「月」の字には、横線が3本あります。もともとの「つきへん」は、上から2番めと3番めの横線が、右の縦線とくっつかず、わずかに間があいていました。それが、「にくづき」と同じ形になったのは、1949年に内閣が発表した、「当用漢字字体表」からです。この表は、画数の多い複雑な漢字を、それまで世間で、ふつうに使われていた俗字や略字にかえてあります。1981年には、新しく「常用漢字表」が発表されましたが、この表でも、「にくづき」と「つきへん」は、同じ形になっています。（監修・田代 脩）

